

題 相模湾の思い出

専門研究員 勝呂 尚之

皆さん、はじめまして。この6月に相模湾試験場にやってきた勝呂（すぐろ）と言います。ちょっと珍しい苗字ですが、先祖はお隣の静岡県・戸田の漁師の一族です（一説には海賊説あり）。もし、皆さんのご先祖さまにご迷惑をおかけしていたらごめんなさい…

私は、同じ水産技術センターでも他の支場である内水面試験場の勤務が長く、ヤマメ、タナゴ、メダカなどの淡水魚ばかりを扱っていました。そのため、海は専門家としては素人です。しかしながら、学生時代は磯の魚が大好きで、よく小田原に釣りに来ていました。釣り好きと言っても、大きな魚にはまったく関心がなく、磯の小魚、メジナ（図1）、ベラ（図2）、イシダイ等の幼魚を釣って持ち帰り、水槽で飼うことが趣味です。家には常時5本以上の水槽があり、そのうち2本は海の魚でした。



図1 相模湾の磯の代表種・メジナ



図2 赤色が美しいベラ（キュウセン）

磯の魚は丈夫で飼育はさほど難しくはないのですが、ちょっとしたコツがあります。例えば、メジナを60cm水槽に5尾くらい入れるとすぐにケンカが始まり、小さな魚からいじめられて殺されてしまいます。海の中では仲良く群れているのに、水槽では行動が変化するところが面白いですね。自然界でも、閉鎖水域のタイドプール（潮だまり）に閉じ込められると、群を解消し、各自が縄張りを主張して、けんかをはじめることが知られています。そのため、飼育する時は、思い切って20尾くらいを一緒に水槽に入れてしまいましょう。するとなぜか、激しいケンカはしなくなります。ただし、水が汚れるので、世話はたいへんですが…

このように、私は中学生の頃から、石橋、米神、真鶴あたりの磯や防波堤に、月一で出沒し、たくさんの魚と出会い、楽しい思い出を残すことができました。さらにはこの時に経験したことが、その後の人生に大きく影響してきます。持ち帰った魚をいつも飼育しながら、じっくり観察していたので、ますます魚に対する興味や関心が大きくなり、その後はごく自然に東京水産大学（現、東京海洋大学）に進学し、現在の県の水産職の仕事へと就職したというわけです。



図3 相模湾から見た箱根の山々



図4 相模湾から見た富士山

私の生い立ち紹介が長くなりましたが、現在の私の業務は、予算や研究管理等の総括がメインでほとんどが事務作業です。しかし、他の研究員のサポートもあり、ほうじょうにもよく乗船します。内水面勤務が長かったので、船には強い方ではありませんが、天気の良い日はとても気持ち良く仕事ができます。大海原の景色も雄大で素晴らしいのですが、私は陸側の景色が特に好きです。富士山や箱根（図3）、そして丹沢の山々は、私が今まで見たことがなかった方向からの山体で、独特の雰囲気をかもしだしています。先日も雪化粧をした富士山の印象的な姿を拝見することができました（図4）。

また、酒匂川や相模川の河口周辺でも調査をすることが多いのですが、海側から見る河口の様子もなかなか見ることができないアングルです。海から見ると大きな川でも河口は想像するより小さく、流れ幅の範囲は確認できないほど狭いのです。しかしながら、海から河口を眺めることで、山と川、そして海とのつながりを意識できる貴重な瞬間ではありました。

私の方は、県を退職するまであまり間もないので、皆さまとは短いお付き合いになりますが、今後ともよろしくお願ひします。